



日
本

の源流再発見

輪島キリコ会館

美しい自然と調和した人々の営み



能登半島の北部 奥能登の中核都市。豊かな自然と海・山の幸に恵まれ、朝市や四季折々の祭礼で知られています。特に7～9月中旬に開催されるキリコ祭りが有名で、七尾市、珠洲市、志賀町、穴水町、能登町と共に日本遺産「灯り舞う半島 能登～熱狂のキリコ祭り～」に認定されています。

File 24 石川県輪島市

勇壮な祭りと香り立つ文化、そして里山の風景

輪島市をはじめとする石川県北部では、毎年7月から9月中旬まで、大型の灯籠を担ぐ「キリコ祭り」が行われます。キリコとは切子灯籠の略称で、直方体の巨大な灯籠のこと。地域ごとに行われ、その数は200地区にも上ります。シーズン中に行けば、キリコ祭りに巡り合える可能性もあります。スタイルは地区ごとに異なりますが、いずれもキリコを担いで練り歩き、夕方から夜遅くまで盛り上がります。

年間を通してキリコを多数展示し、祭りの映像の鑑賞などができるのが、「輪島キリコ会館」です。キリコの周りに

スロープがあり、裏面に描かれている絵や、上部の構造などもじっくり鑑賞することができます。また、展示されている最大のキリコは約2トン、高さ12mを超え、迫力満点。江戸時代に巨大化したキリコは、近代以降、市中に電線が張り巡らされたため、小さくつくられるようになりましたが、その移り変わりも見ることができます。

輪島の代表的な伝統工芸といえば、輪島塗。その特徴は、各工程が分業制になっていることと、縁など欠けやすい部分に布を張り、珪藻土けいそうどを混ぜた独特の下地を使うことで、極めて丈夫に



輪島工房長屋

できていること。輪島キリコ会館のすぐ近くにある「輪島工房長屋」では、100年以上経った輪島塗の漆器を見られますが、まるで今出来上がったばかりのような美しさ。輪島塗は高価ですが、これだけ長持ちするのなら、日常使いもで



▲ 白米千枚田

思わず息をのむ美しい棚田は世界農業遺産のシンボリック存在でもあり、青々とした稲や黄金色の稲穂のある時期はもちろん、稲刈り後の10月中旬から3月中旬までイルミネーションイベントが開催され、年間を通して風景を楽しめます



▲ 輪島朝市

毎朝8時から午前中開催。定休日は1月1～3日と第2・4水曜日（特別開催日もあり）のみ。毎日多くの観光客でにぎわっています



▲ 間垣の里（輪島市大沢町）

冬の日本海から吹きつける季節風や夏の暑い西日を遮るため、海に向けて竹を隙間なく並べた垣根「間垣」が連なる集落です。NHKの連続テレビ小説「まれ」の撮影地としても知られています



▲ 垂水（たるみ）の滝

滝の水が山から日本海に面した岩場へと流れる珍しい滝。真冬には水が海風におおられることから「吹き上げの滝」とも呼ばれます

きそうです。輪島工房長屋では、職人さんの作業を間近に見たり、直接話を聞いたりすることも可能。絵付けの一部を体験することもできます。

もうひとつ、輪島名物といえば朝市。千年以上の歴史があるといわれ、今でもほぼ毎日開催されています。朝市通りには、輪島市出身の漫画家 永井豪の記念館も。入り口の「マジンガーZ」が目印です。

輪島市を語るうえで欠かせないのが、自然と里山の風景です。海岸沿いには、白米千枚田や間垣の里など必見スポットが多数。海の近くまで山が迫

る急峻な地形のため美しい滝も多く、これらを見ながら海岸沿いをドライブするのも楽しいでしょう。能登の自然と調和した人々の営みが評価され、「能登の里山里海」として国際連合食糧農業機関（FAO）から2011年に日本で初めて世界農業遺産に認定されました。

ココに注目

ゴルフカートを改良した「WA-MO (Wajima Small Mobility)」は、住民や観光客の足として市内中心部を無料で回遊しています。



日立グループ事業所紹介

今回訪れた石川県には株式会社 日立製作所 北陸支社 金沢支店があります。北陸地域を営業拠点とする北陸支社の一翼を担い、情報システム、電力・産業システム、都市ソリューションなどさまざまな分野で事業活動を行っています。

株式会社 日立製作所 北陸支社 金沢支店 石川県金沢市広岡3丁目1番1号（金沢パークビル5F）

<http://www.hitachi.co.jp/about/corporate/area/hokuriku/>